

平成26年度

登録販売者試験問題

【午後の部】

平成26年8月20日(水)
13:30～15:30

※出題数は60問であるので確認して下さい。

1. 試験中、机上には受験票、筆記用具、時計以外のもの(下敷き、筆入れ、電卓、計算機付き時計、飲食物等)は置かないで下さい。
2. 携帯電話等通信機器は試験開始前に電源を切って下さい。
3. 質問がある時、又は筆記用具が机から落下した時は、黙って右手を上げて下さい。
4. 午前・午後とも試験開始後1時間を経過した後は、試験時間終了前の退席を認めます。
この場合は、試験監督の指示に従い、解答用紙を裏返して退席して下さい。
ただし、状況により試験監督が別の指示を行う場合があります。
5. 試験時間終了前に退席した場合は、その理由によらず再入場は認めません。
6. この試験問題は、各自持ち帰って下さい。
7. 合格発表は、平成26年10月7日(火)午前10時、島根県庁前及び各保健所の掲示板並びに島根県ホームページに合格者の受験番号を掲示することにより行います。
なお、合格者には、おって合格証を送付します。
8. 受験者が自らの得点を知りたい場合は、合格発表の日から1ヶ月間、最寄りの保健所及び薬事衛生課にて開示を実施しますので、必ず受験票、運転免許証、パスポート等、本人確認ができるものを持参の上お越し下さい。(電話による照会にはお答えできません。)

島 根 県

主な医薬品とその作用

問1 かぜ薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 かぜ薬は、総合感冒薬とも呼ばれ、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものである。
- 2 かぜ薬の重篤な副作用は、配合されている解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）によるものが多い。
- 3 かぜ薬（漢方処方成分、生薬成分のみから成る場合を除く。）の配合成分によっては、使用上の注意の重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群が記載されている場合がある。
- 4 かぜ薬を一定期間又は一定回数使用して症状の改善がみられない場合は、別のかぜ薬に変更し対処することが望ましい。

問2 かぜ薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイドやヨウ化イソプロパミドが配合されている場合がある。
- b 鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげる成分として、グアヤコールスルホン酸カリウムが配合されている。
- c リゾチーム塩酸塩は、炎症を生じた鼻粘膜や喉の組織の修復に寄与するほか、痰の粘り気を弱め、また、痰の排出を容易にする作用を示す。
- d コデインリン酸塩は、主に鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する成分であるが、依存性がある成分であることに留意する必要がある。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問3 解熱鎮痛薬とその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分は化学的に合成された成分と生薬成分とに大別されるが、ともに痛みや発熱の原因となるプロスタグランジンの体内での産生を抑えることで作用を示す。
- b イブプロフェンは、消化管への影響がないため、潰瘍性大腸炎やクローン氏病の既往歴がある人でも、服用により再発を招くことはない。
- c ピリン系と呼ばれる解熱鎮痛成分は、現在ではイソプロピルアンチピリンのみが一般用医薬品に用いられる。
- d シャクヤクはボタン科のシャクヤクの根を基原とする生薬で、鎮痛鎮痙^{けい}作用、鎮静作用を示し、内臓の痛みにも用いられる。

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問4 解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンには、血液を凝固しやすくさせる作用があるため、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日12週間以内の使用を避ける必要がある。
- b エテンザミドは、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることがあり、アスピリン、カフェイン、エテンザミドの組合せは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。
- c アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- d サリチルアミドは、水痘（水疱瘡^{とう ぼうそう}）又はインフルエンザにかかっている15歳未満の小児に対しては使用を避ける必要がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 正 |

問5 解熱鎮痛薬に配合される成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【目的とする作用】
a	アリルイソプロピルアセチル尿素	—	解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける
b	ビタミンB1	—	骨格筋の緊張をもたらす脊髄反射を抑制する
c	水酸化アルミニウムゲル	—	解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害の軽減
d	メトカルバモール	—	中枢神経系を刺激して、解熱鎮痛成分の鎮痛作用を増強する

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問6 眠気を促す薬とその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人を対象としている。
- 2 ジフェンヒドラミン塩酸塩は、脳内におけるヒスタミン刺激を増強する作用を目的に配合されている。
- 3 神経の興奮・緊張緩和作用を期待して配合される生薬成分のチョウトウコウは、クロウメドキ科のサネブトナツメの種子である。
- 4 漢方処方製剤である加味帰脾湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされている。
- 5 ブロムワレリル尿素は、反復して摂取しても依存を生じるおそれがない成分である。

問7 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）とその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カフェインが配合されていれば、抗めまい成分、抗ヒスタミン成分等の作用による眠気が解消される。
- b 抗めまい成分として配合されるジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用がある。
- c 抗ヒスタミン成分、抗コリン成分、鎮静成分、カフェイン類等の配合成分が重複して、鎮静作用や副作用が強く現れるおそれがあるので、かぜ薬、解熱鎮痛薬等との併用は避ける必要がある。
- d 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげることを目的として、ジプロフィリンが配合されている場合がある。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問8 以下の生薬成分のうち、小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に配合される代表的な生薬であるものの組み合わせはどれか。

- a ジンコウ
- b レイヨウカク
- c ラタニア
- d マオウ

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問9 鎮咳去痰薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トリメトキノール塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮める。
- b メトキシフェナミン塩酸塩は、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
- c クレゾールスルホン酸カリウムは、口腔咽喉薬の効果を兼ねたトローチ剤やドロップ剤において、殺菌消毒成分として配合されている場合がある。
- d 生薬成分のセキサンは、その摂取により糖尿病の検査値に影響を生じることがあり、糖尿病が改善したと誤認されるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 10 鎮咳去痰薬の漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 半夏厚朴湯は、体力中等度をめやすとして、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感に適すとされる。
- b 柴朴湯は、体力中等度で、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、かぜをひきやすく、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴うものの小児喘息、気管支喘息、気管支炎、咳、不安神経症、虚弱体質に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）には不向きとされる。
- c 神秘湯は、マオウを含まず、体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽喉頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息の症状に適すとされ、胃腸の弱い人にも適用できる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	誤

問 11 ヨウ素系殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 口腔咽喉薬やうがい薬（含嗽薬）に配合されるヨウ素系殺菌消毒成分については、口腔粘膜の荒れ、しみる、灼熱感、悪心（吐きけ）、不快感の副作用が現れることがある。
- 2 外用薬に配合されるヨウ素系殺菌消毒成分については、ヨウ素による酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対して殺菌消毒作用は示さない。
- 3 外用薬に配合されるポビドンヨードは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（PVP）と呼ばれる担体に結合させて脂溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- 4 外用薬に配合されるヨードチンキは、エタノールと混ぜると不溶性の沈殿を生じて、殺菌作用が低下する。

問 12 口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とする。
- 2 口腔咽喉薬には、殺菌消毒成分が配合され、口腔及び咽頭の殺菌・消毒等を目的とする製品はあるが、鎮咳成分や気管支拡張成分は配合されていない。
- 3 含嗽薬は、口腔及び咽頭の殺菌・消毒・洗浄、口臭の除去等を目的として、用時水に希釈又は溶解してうがいに用いる、又は患部に塗布した後、水でうがいする内用液剤である。
- 4 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。

問 13 胃の薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 消化薬は、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする。
- 2 制酸と健胃のように相反する作用を期待するものが配合されている場合もある。
- 3 消化不良、胃痛、胸やけなど症状がはっきりしている場合は、効果的に症状の改善を図るため、症状に合った成分のみが配合された製品が選択されることが望ましい。
- 4 健胃薬、消化薬、整腸薬又はそれらの目的を併せ持つものには、医薬部外品として製造販売されている製品もある。
- 5 制酸薬は、胃内容物の刺激によって促進される胃液分泌から胃粘膜を保護することを目的として、食後に服用することとなっているものが多い。

問 14 胃の薬（制酸薬、健胃薬、消化薬）に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胃粘膜保護作用を期待して、アカメガシワ（トウダイグサ科のアカメガシワの樹皮を基原とする生薬）等の生薬成分が用いられる場合がある。
- b 胃粘膜の炎症を和らげることを目的として、ジメチルポリシロキサンが配合されている場合がある。
- c ピレンゼピン塩酸塩は、アセチルコリンの働きを抑えることにより、過剰な胃液の分泌を抑える作用が期待される。
- d リュウタン（リンドウ科のトウリンドウ等の根及び根茎を基原とする生薬）は、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを期待して用いられる。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 15 腸の薬（整腸薬、止瀉薬、瀉下薬）に配合される成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】

【目的とする作用】

- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|---|
| a | トリメブチンマレイン酸塩 | — | 消化管（胃及び腸）の運動を調整する作用 |
| b | ベルベリン塩化物 | — | 腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させる作用 |
| c | 酸化マグネシウム | — | 小腸を刺激することによる瀉下作用 |
| d | カルメロースナトリウム
（別名カルボキシメチルセルロースナトリウム） | — | 腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、糞便のかさを増やすとともに糞便を柔らかくすることによる瀉下作用 |

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 16 以下の記述について、あてはまる漢方処方製剤はどれか。

体力に関わらず広く応用され、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常発酵、痔などの症状の緩和に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある。

- 1 六君子湯りっくんしとう
- 2 桂枝加芍薬湯けいしかしゃくやくとう
- 3 大黃甘草湯だいおうかんぞうとう
- 4 五虎湯ごことう
- 5 安中散あんちゅうさん

問 17 胃腸鎮痛鎮痙薬とその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 抗コリン作用を示すアルカロイドを豊富に含む生薬成分として、ロートエキス（ロートコン（ナス科のハシリドコロ又はチョウセンハシリドコロの根茎及び根を基原とする生薬）の抽出物）が用いられることが多い。
- 2 パパベリン塩酸塩は、抗コリン成分と同様に胃液分泌を抑える作用がある。
- 3 アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、念のため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- 4 胃腸鎮痛鎮痙薬に配合されている成分は、胃腸以外に対する作用も示すものがほとんどであり、複数の胃腸鎮痛鎮痙薬が併用された場合、泌尿器系や循環器系、精神神経系などに対する作用（副作用）が現れやすくなる。

問 18 浣腸薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 注入剤は、薬液の放出部を肛門に差し込み、薬液だまりの部分^{こう}を絞って、薬液を押し込むように注入する。
- b グリセリンは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c 半量等を使用した注入剤は、残量を密封して冷所に保存すれば、感染のおそれもなく再利用することができる。
- d 繰り返し使用すると直腸の感受性の低下(いわゆる慣れ)が生じて効果が弱くなり、医薬品の使用に頼りがちになるため、連用しないこととされている。

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 19 駆虫薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、鉤虫と蟯虫^{こう ぎょう}である。
- b 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵には駆虫作用が及ばない。
- c 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まるが、副作用も現れやすくなる。
- d 副作用を生じる危険性が高まるため、ヒマシ油との併用は避ける必要がある。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |

問 20 強心薬に配合される強心成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して、センソ、ゴオウ、ジャコウ、ロクジョウ等の生薬成分が用いられる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬であり、一般用医薬品では1日用量が10 mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- c ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇の作用があるとされる。
- d ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、もしくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 21 コレステロールに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コレステロールは細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質でもある。
- b 血液中の高密度リポタンパク質（HDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで腎臓へと運ぶリポタンパク質である。
- c 医療機関で測定する検査値として、低密度リポタンパク質（LDL）が 140mg/dL 以上、高密度リポタンパク質（HDL）が 40mg/dL 未満、中性脂肪が 150mg/dL 以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。
- d コレステロールは、食事から摂取されたタンパク質及び脂質から主に産生される。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 22 高コレステロール改善薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a パンテチンは、悪心（吐きけ）、胃部不快感、胸やけ、下痢等の消化器系の副作用が現れることがある。
- b ポリエンホスファチジルコリンは、LDL等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、HDL産生を高める作用があるとされる。
- c リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
- d ガンマ-オリザノールは、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 23 貧血と貧血用薬（鉄製剤）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 鉄分の摂取不足を生じて、初期には貯蔵鉄（肝臓などに蓄えられている鉄）やヘモグロビンが減少するのみで、血清鉄（ヘモグロビンを産生するために、貯蔵鉄が赤血球へと運ばれている状態）の量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。
- 2 マンガンは、ビタミンB12の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。
- 3 複数の貧血用薬と併用すると、鉄分の過剰摂取となり、胃腸障害や便秘等の副作用が起りやすくなる。
- 4 貧血のうち鉄製剤で改善できるのは、出血性の疾患による慢性的な血液の損失が原因の貧血症状のみである。

問 24 循環器用薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a コウカ（キク科のベニバナの管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧縮して板状としたものを基原とする生薬）には、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ルチンは、タンパク質の一種で、高血圧等における毛細血管の拡張の効果を期待して、用いられる。
- c ヘプロニカートは、別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- d イノシトールヘキサニコチネートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 25 以下の内用痔疾用薬の配合成分のうち、肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して用いられるものはどれか。

- 1 カルバゾクロム
- 2 トコフェロールコハク酸エステル
- 3 セイヨウトチノミ
- 4 ブロメライン
- 5 カイカ

問 26 以下の泌尿器用薬に配合される生薬成分のうち、シソ科のウツボグサの花穂を基原とするもので、日本薬局方収載のものが煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられるものはどれか。

- 1 カゴソウ
- 2 キササゲ
- 3 サンキライ
- 4 ソウハクヒ
- 5 モクツウ

問 27 婦人薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状（血行不順、自律神経系の働きの乱れ、生理機能障害等の全身的な不快症状）の緩和と、保健を主たる目的としている。
- b 女性ホルモン成分が配合された婦人薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性が使用しても問題はない。
- c サフラン（アヤメ科のサフランの柱頭を基原とする生薬）は、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合される場合がある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	誤	正

問 28 以下の記述について、あてはまる漢方処方製剤はどれか。

体力中等度以下で、冷え性、貧血気味、神経過敏で、動悸^き、息切れ、ときにねあせ、頭部の発汗、口の渇きがあるものの更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸^き、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎に適すとされる。まれに重篤な副作用として、間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。

- 1 さい こ けい し かんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯
- 2 とうかくじょう きとう 桃核承気湯
- 3 けい し ぶくりょうがん 桂枝茯苓丸
- 4 うんせいいん 温清飲
- 5 とう きしやくやくさん 当帰芍薬散

問 29 内服アレルギー用薬(鼻炎用内服薬を含む。)に配合される成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 クレマスチンフマル酸塩は、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を抑える成分である。
- 2 メキタジンは、アドレナリン作動成分であり、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることがを目的として配合されている場合がある。
- 3 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることがを目的として、メチルエフェドリン塩酸塩が配合されている場合がある。
- 4 皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給することを目的として、ニコチン酸アミド等のビタミン成分が配合されている場合がある。

問 30 鼻に用いる薬とその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 点鼻薬は局所（鼻腔内）に適用されるものであり、全身的な影響を生じることはない。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞とアレルギーの結合を抑えることを目的として配合される。
- 3 殺菌消毒成分として配合されるベンザルコニウム塩化物は、陰性界面活性成分である。
- 4 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎であり、蓄膿症などの慢性のものは対象となっていない。

問 31 以下の点眼薬に配合される成分のうち、目の乾きを改善する目的で配合されるものはどれか。

- 1 グリチルリチン酸二カリウム
- 2 コンドロイチン硫酸ナトリウム
- 3 ナファゾリン硝酸塩
- 4 ネオスチグミンメチル硫酸塩
- 5 アズレンスルホン酸ナトリウム

問 32 外皮用薬に配合される成分とその目的とする作用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】	【目的とする作用】
a バシトラシン	－ 細菌の細胞壁合成を阻害することによる抗菌作用
b ピロキシリン (ニトロセルロース)	－ 皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す作用
c ナファゾリン塩酸塩	－ プロスタグランジンなどの炎症を引き起こす物質の産生を抑える作用
d ビタミンA油	－ 損傷皮膚の組織の修復を促す作用

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 33 きず口等の殺菌消毒成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 アクリノールは、黄色の色素で、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。
- 2 オキシドール（過酸化水素水）の作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化、及び発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果である。
- 3 マーキュロクロムは、有機水銀の一種であるが、皮膚浸透性が低く、通常の使用において水銀中毒を生じることはない。
- 4 クロルヘキシジングルコン酸塩は、一般細菌類、真菌類の他、結核菌やウイルスに対しても比較的広い殺菌消毒作用を示す。

問 34 歯痛薬（外用）とその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 歯痛薬は、歯の齶蝕が修復されることにより歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品である。
- 2 冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して、テーカインが配合されていることがある。
- 3 齶蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として、セチルピリジニウム塩化物等の殺菌消毒成分が用いられる。
- 4 サンシシはアカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、局所麻酔作用を期待して用いられる。

問 35 歯槽膿漏薬に用いられるアラントインの配合目的に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 炎症を起こした歯周組織の修復を促す。
- 2 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える。
- 3 歯肉溝での細菌の繁殖を抑える。
- 4 コラーゲン代謝を改善して炎症による腫れを抑える。

問 36 禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- b 喫煙を完全に止めたうえで使用することとされている。
- c ニコチン離脱症状を軽減しながら、徐々にその使用量を減らしていく必要があるため、使用期間は6ヶ月以上を目処に長期間使用することとされている。
- d ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作用を増強させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 37 ビタミン成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ビタミンB2は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- 2 ビタミンB6は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- 3 ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- 4 ビタミンCは、夜間視力を維持したり、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

問 38 漢方処方製剤に関する以下の記述について、() の中に入れるべき製剤の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色が赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

(b) は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。構成生薬としてカンゾウを含む。

(c) は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹・皮膚炎、酒皰鼻（赤鼻）に適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c
1	おうれん げ どもくとう 黄連解毒湯	ぼう い おう ぎ とう 防己黄耆湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯
2	おうれん げ どもくとう 黄連解毒湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	ぼう い おう ぎ とう 防己黄耆湯
3	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	ぼう い おう ぎ とう 防己黄耆湯	おうれん げ どもくとう 黄連解毒湯
4	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	おうれん げ どもくとう 黄連解毒湯	ぼう い おう ぎ とう 防己黄耆湯
5	ぼう い おう ぎ とう 防己黄耆湯	せいじょうぼうふうとう 清上防風湯	おうれん げ どもくとう 黄連解毒湯

問 39 以下の漢方処方製剤とその適用となる症状の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

【漢方処方製剤】	【適用となる症状】
1 防風通聖散 <small>ぼうふうつうしょうせい</small>	— 体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症
2 麦門冬湯 <small>ばくもんとうとう</small>	— 体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるものから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声
3 牛車腎気丸 <small>ごしゃじんきがん</small>	— 体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく尿量減少し、むくみがあり、ときに口渇があるもの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒み、排尿困難、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状（肩こり、頭重、耳鳴り）
4 白虎加人參湯 <small>びやっこかにんじんとう</small>	— 体力虚弱なものの病後・術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、手足の冷え、貧血

問 40 以下の殺虫剤に配合される成分とその分類の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

【成分】	【分類】
1 フェノトリン	— カーバメイト系
2 ダイアジノン	— 有機塩素系
3 オルトジクロロベンゼン	— オキサジアゾール系
4 ジクロロボス	— 有機リン系
5 プロポクスル	— ピレスロイド系

医薬品の適正使用・安全対策

問 41 要指導医薬品又は一般用医薬品の適正使用情報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 要指導医薬品又は一般用医薬品の場合、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものであるため、添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、その適切な選択、適正な使用を図る上で特に重要である。
- b 添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、一般の生活者が理解しやすい平易な表現で記載されている。
- c 医薬品の販売等に従事する薬剤師や登録販売者は、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解した上で、購入者等への情報提供及び相談対応を行う必要がある。
- d 医薬品の販売等に従事する薬剤師や登録販売者は、添付文書や製品表示に記載されている内容から、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明をすることが重要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 42 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。
- b 開封時に一度目を通せば十分であるため、保管の必要はない。
- c 通常の医薬品では、承認を受けた販売名が記載されている。
- d 使用上の注意は、「してはいけないこと」及び「相談すること」の項目のみから構成されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 43 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「してはいけないこと」の項目で「授乳中の人には本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」として記載するほどではない場合に、「相談すること」の項目に「授乳中の人」と記載されている。
- b 小児に使用される医薬品において、その医薬品の配合成分に基づく一般的な注意事項のうち、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」など、小児では通常当てはまらない内容は記載されていない。
- c 使用上の注意の記載における「高齢者」とは、およその目安として70歳以上を指す。
- d 「相談すること」の項目に記載される「薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人」には、他の医薬品でアレルギーの既往歴があっても、その医薬品によりアレルギー症状を起こしたことがない人は該当しない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 44 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を別の容器に移し替えると、日時が経過して中身がどんな医薬品であったか分からなくなってしまうことがあり、誤用の原因となるおそれがある。
- b シロップ剤は変質しにくいいため、開封後に冷蔵庫内で保管する必要はない。
- c 眼科用薬は、家族で共用してなるべく早く使い切ることが望ましい。
- d 散剤は、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 45 一般用医薬品の製品表示に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1 回服用量中0.3mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、「アルコール含有〇〇mL以下」のように、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- b 医薬品によっては、添付文書の形ではなく、薬事法第52条の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」等の記載を、外箱等に行っている場合がある。
- c 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品については法的な表示義務はない。
- d 医薬品の購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも保管に関する注意事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 46 一般用医薬品の添付文書における使用上の注意の記載とその対象成分・薬効群の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	「次の人は使用（服用）しないこと」	対象成分・薬効群
a	前立腺肥大による排尿困難の症状がある人	プソイドエフェドリン塩酸塩
b	出産予定日 12 週以内の妊婦	アスピリン
c	ぜんそくを起こしたことがある人	フェルビナクが配合された外用鎮痛消炎薬
d	胃酸過多の症状がある人	カフェインを含む成分を主薬とする眠気防止薬

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 47 以下の記述について、あてはまる成分の正しい組み合わせはどれか。

緑内障の症状を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、緑内障の診断を受けた人は、使用（服用）する前に、医薬品の販売に従事する薬剤師や登録販売者に相談するよう注意を求めているもの

- a ジフェニドール塩酸塩
- b トラネキサム酸
- c イブプロフェン
- d パパベリン塩酸塩

- 1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 48 以下の記述について、あてはまる成分の正しい組み合わせはどれか。

心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、心臓病の診断を受けた人は、使用（服用）する前に、医薬品の販売に従事する薬剤師や登録販売者に相談するよう注意を求めているもの

- a サントニン
- b メチルエフェドリン塩酸塩
- c スコポラミン臭化水素酸
- d ケイ酸アルミニウム

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 49 安全性情報に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

薬事法第 77 条の 3 第 1 項の規定により、医薬品の製造販売業者等は、医薬品の (a) 及び安全性に関する事項その他医薬品の (b) のために必要な情報を収集し、検討するとともに、薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者及びそこに従事する (c) に対して、提供するよう努めなければならないこととされている。

	a	b	c
1	有効性	適正な使用	一般従事者
2	有効性	適正な使用	薬剤師や登録販売者
3	有効性	使用促進	薬剤師や登録販売者
4	危険性	適正な使用	薬剤師や登録販売者
5	危険性	使用促進	一般従事者

問 50 医薬品・医療機器の「緊急安全性情報」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- b 製造販売業者及び行政当局による報道発表、(独) 医薬品医療機器総合機構による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接配布等により情報伝達される。
- c A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- d これまでに、一般用医薬品に関する緊急安全性情報が発出されたことはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 51 厚生労働省が情報提供している「医薬品・医療機器等安全性情報」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 厚生労働省において、重要な副作用、不具合等に関する情報を原則、2ヶ月毎に取りまとめている。
- b 医薬品の安全性に関する解説記事や、使用上の注意の改訂内容、主な対象品目、参考文献等が掲載されている。
- c 医学・薬学関係の専門誌への転載は禁止されている。
- d 各都道府県、保健所設置市及び特別区、関係学会等へ冊子が送付される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問52 (独) 医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」において、要指導医薬品及び一般用医薬品に関連した情報として掲載されている事項の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「使用上の注意」の改訂情報
- b 生産量及び生産額
- c 製品回収に関する情報
- d 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問 53 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品による副作用等の情報を収集するため、1978年8月より、約3000のモニター薬局で把握した副作用事例等について、定期的に報告が行われるようになった。
- b 登録販売者は、本制度に基づく副作用等の報告義務はない。
- c 医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- d 医薬品の販売業者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合においては、すべて報告しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 54 医薬品の市販後の安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1996年の薬事法改正により、製造販売業者等が副作用等の情報収集の義務を負うことが薬事法に明記されている。
- b 医薬品の販売業者は、薬事法第77条の3第2項により、製造販売業者等が行う情報収集に協力するよう努めなければならない。
- c 新一般用医薬品（既存の要指導医薬品及び一般用医薬品と有効成分、分量、用法・用量、効能・効果等が明らかに異なる一般用医薬品）のうち、既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合されたものについては、10年を越えない範囲で厚生労働大臣が承認時に定める一定期間（概ね8年）、承認後の使用成績等を製造販売業者等が集積し、厚生労働省へ提出する制度（再審査制度）が適用される。
- d 新一般用医薬品のうち、医療用医薬品において使用されていた有効成分を一般用医薬品において初めて配合したものについては、承認条件として承認後の一定期間（概ね3年）、安全性に関する調査及び調査結果の報告が求められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 55 薬事法第77条の4の2第2項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 報告の対象となる医薬品の副作用は、使用上の注意に記載されているもののみである。
- b 医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合であっても報告の対象となり得る。
- c 報告様式は、(独) 医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」から入手できる。
- d 保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、報告期限が定められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 56 医薬品副作用被害救済制度による救済給付の種類について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一時補償金
- b 遺族年金
- c 医療手当
- d 失業給付金

1 (a, c) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (b, d)

問 57 医薬品副作用被害救済制度の救済給付の請求に当たって必要な書類に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

要指導医薬品又は一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求に当たっては、(a)、要した医療費を証明する書類(領収書等)などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の(b)の作成した(c)等が必要となる。

	a	b	c
1	患者の健康被害届書	販売業者	相談受付書
2	患者の健康被害届書	製造販売業者	相談受付書
3	患者の健康被害届書	製造販売業者	販売証明書
4	医師の診断書	販売業者	販売証明書
5	医師の診断書	製造販売業者	相談受付書

問58 医薬品PLセンターに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 厚生労働省において、平成7年7月の製造物責任法（PL法）の施行と同時に開設された。
- b 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、相談することが推奨される。
- c 消費者と製造販売元の企業との交渉の仲介や調整・あっせんを行い、裁判によらない迅速な解決に導くことを目的としている。
- d 消費者が、医薬品又は医療機器に関する苦情（健康被害以外の損害も含まれる）について、製造販売元の企業と交渉するに当たって、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付けている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 59 一般用医薬品の安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が、2003年5月までに計26例報告されたことから、厚生労働省は、同年6月、一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂を指示した。
- b 小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}については、1994年1月にインターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされたが、それ以降も慢性肝炎患者が小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}を使用して間質性肺炎を発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、1996年3月、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。
- c アンプル剤は他の剤型（錠剤、散剤等）に比べて吸収が遅く、血中濃度が徐々に高まるため、通常用量でも副作用が生じにくいことが確認されている。
- d 塩酸フェニルプロパノールアミン（PPA）含有医薬品については、2000年5月、米国において、女性が食欲抑制剤（我が国での鼻炎用内服薬等における配合量よりも高用量）として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、米国食品医薬品庁（FDA）から、米国内におけるPPA含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問 60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬物乱用防止を推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 登録販売者は、薬剤師とともに一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者（専門家）として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のための活動に積極的に参加、協力することが期待されている。
- c 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について、正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動等が実施されている。
- d 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚せい剤、大麻等）によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じ得る。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

